

自分たちのまちは自分たちで守る！
小川方面隊が競技大会ならびに点検

6月5日、宇城市消防団小川方面隊（米村幸利隊長）の競技大会並びに点検が、稲川市民グラウンドで開催されました。

まず、方面隊430人が堂々とした分列行進で入場。各分団ごとに通常点検を披露した後、班対抗で操法競技と放水競技が行われ、団員らは日ごろの訓練の成果を発揮していました。

競技の結果、通常点検の部で女性分団小川女性部、点検総合の部で第1分団、操法競技の部で第5分団第2部第3指揮班（北出村・宇土割地区）、放水競技の部で第5分団第1部第3指揮班（上住吉地区）が優勝。年間最優良分団には、第5分団が決定しました。



きびきびとした動作を見せる通常点検

新鮮なイチゴを食べてね！
広がれ地産地消の輪

5月23日、J A熊本うき三角地区イチゴ部会（浦西哲部会長）が三角小学校を訪問、イチゴ（さちのか）約200パックを贈呈しました。

地産地消を推進するJ A熊本うきが、地元で採れた新鮮な食材を学校給食に取り入れてもらおうと始めたもので、今年で4回目になります。

これらのイチゴは早速、町内の小中学校、保育園、幼稚園に配布され、その日の給食に登場。農家の方々に感謝しつつ、新鮮なイチゴに舌鼓を打ちました。



児童を代表してイチゴを受け取った給食委員。左から統裕衣さん、浦河裕貴君、野口優斗君（全員6年生）

ちびっ子ストライカー大活躍
河江キッズサッカー大会

6月11日から12日にかけて、小川町益南広場で河江FC主催の第4回河江キッズサッカー大会がありました。あさぎり町、人吉市、山鹿市など、県内各地から116チームが参加。子どもたちは保護者らの悲鳴に近い応援を背に、元気いっぱい練習の成果を発揮しました。

各部門の優勝チームは次のとおりです。

- 【幼児・年中】 河江FCゲッチュウ（小川町）
- 【幼児・年長】 阿蘇中央つき（阿蘇市）
- 【小学1年生】 アズリーノスペイン（熊本市）
- 【小学2年生】 河江FC2年（小川町）
- 【小学3年生】 アズリーノパラグアイ（熊本市）

取られちゃった！
あれ？



もっとたくさん子どもの居場所を
上美林子ども会が田植え体験

6月5日、豊野町の上美林子ども会（池田和徳会長・22人）が、もち米の田植え体験を行いました。

子どもたちは巢林地区の古本静男さん所有の水田（4アール）に裸足で入り、転ばないように注意しながら丁寧に苗を植え付けていきました。

今秋収穫予定のもち米は12月に、子ども会で地区内の独り暮らしのお年寄りにお正月用のお餅をついて配る予定です。

同子ども会では、文部科学省が進めている「子どもの居場所づくり運動」を推進しており、池田会長は「これからも多くの『子どもの居場所』を提供できるように努力していきたい」と抱負を語っていました。



一本一本丁寧に苗を植え付ける子どもたち

長年にわたり更生保護活動に貢献
中山さんに感謝状、藤田さんには表彰状

このほど、中山典子さん（元三角地区更生保護女性会会長、現顧問・三角町郡浦）が更生保護功労で法務大臣から感謝状を、また、藤田武子さん（現同会会長・三角町波多）が日本更生保護女性連盟会長から表彰状を贈られました。

中山さんは三角地区更生保護女性会に発足（昭和40年）と同時入会、藤田さんは昭和48年入会。犯罪・非行防止に深く関心を持ち、ボランティアとして地道に活動を続けてきました。

お二人は「このたびの受賞は個人のものではなく、会員はもちろん、多くの方々の協力、支援を頂いた賜物と受け止め、その重みを大切に今後の活動に精進したい」と受賞の喜びを語りました。



中山典子さん



藤田武子さん

幻想的なホタルの乱舞にうっとり
豊野町みどりの少年団がホタルを観察

5月20日、豊野町みどりの少年団（奥村隆雄団長）主催のホタルの観察会が豊野公民館で開かれ、同団員23人と一般住民8人が参加しました。

熊本県ホタル研究会の小林修会長から「ホタルのくらし」と題する話を聞いた後、参加者らはホタルが生息する近くの川沿いを散策しました。

昔は「いて当たり前」だったホタルが、今では「探してもなかなか見つからないもの」に。暗闇の中、ホタルの乱舞を目にすると、子どもたちばかりでなく大人たちも大喜びし、昼間とは違う幻想的な世界を楽しんでいました。



県ホタル研究会の小林修会長がホタルの生態などについて説明

文化の花が咲き誇るまちへ
宇城市文化協会設立総会

5月24日、宇城市文化協会設立総会が、役員と総代の25人が出席して、不知火支所大会議室で行われ、平成17年度の事業計画や予算、役員などが承認されました。

初代会長には、旧松橋町会長の久山輝哉さん（松橋町曲野）が就任し、「山と海、美しい田園風景に彩られ、未来に羽ばたく宇城市の5町がそれぞれの伝統文化を継承しながら、文化の花が咲き誇るのを祈ってやみません」と抱負を述べました。

また副会長には旧4町の会長、理事には各町から2人ずつが選ばれ、市の協会員数は約3,000人となりました。



就任のあいさつをする久山輝哉会長

人権と女性の地位向上を目指して
国際ソロプチミストが活動収益金を寄付

6月6日、専門的職業を持つ女性の奉仕活動団体「国際ソロプチミストまつばせ」（吉田美子会長・14人）が地域貢献活動の一環として、活動で得た収益金を「社会福祉法人 まつの木作業所」（松岡淳子所長）に寄付しました。

「国際ソロプチミスト」は1921年に結成された世界125カ国に約10万人の会員を有する世界的組織。「女性と女性の生活の改善」を世界共通の目標としてさまざまな奉仕活動を行っています。

国際ソロプチミストまつばせは平成11年に設立され、チャリティーバザーをはじめ、献血奉仕活動、国際交流会、ポケットパークの花植え・管理などを実施。今後さらなる活動に向け新規会員を募集中とのことです。入会を希望される方は柏木久美子メンバーシップ委員長（☎34-6660）まで。



まつの木作業所に寄付金を手渡す吉田美子会長（右から4人目）